

中国 5 県休眠預金等活用コンソーシアム

第 26 回 運営委員会 議事録

(1) 日時

2022 年 11 月 9 日 (火) 17 時半～19 時

(2) 会場

Zoom オンライン会議

(3) 参加者

① 運営委員

とっとり県民活動活性化センター	毛利葉
ふるさと島根定住財団	細田浩之
岡山 NPO センター	石原達也
ひろしま NPO センター	松原裕樹
やまぐち県民ネット 2 1	伊藤彰

② 事務局・オブザーバー

とっとり県民活動活性化センター	小林綾子
ふるさと島根定住財団	小笠原啓太
岡山 NPO センター	高平亮
ひろしま NPO センター	松村渉

(4) 議題

① 2022 災害枠について

② その他

■2022 災害枠について

岡山 NPO センターより事業計画についての説明があり、検討の上承認された。

事業計画の検討について

災害支援団体が核ではなく、市町村中間支援を中心とした事業。

越境できる災害支援団体の支援の 2 本立ての提案とした。

対象は被災者、社協、市町村で 7~10 団体程度を想定。

各県 1~2 か所の中間支援と、岡山広島の専門組織を対処とするイメージ。

事業内容としては、各種訓練、市町村の災害ネットワーク形成、研修実施、基金創立と言ったイメージ。

支援団体の組織基盤強化は機材購入、パートナー組織作りのようにうまく機能するように考えている

コンソの役割としては、組織基盤強化のサポート、ろうきんにもお金あるので、その基金強化、5 県連携強化、自治体の官民連携の政策提言と言った感じ。

訓練とか立ち上げ式を実施出来れば、カウンターパートナーを見つけたり、訓練でノウハウが身についたり、支援に必要なものを購入したりで、アウトプット、アウトカムとできると思う。

毛利氏

まとまってきていて良い計画だと思う

鳥取で主な団体と話した中で、なかなか市町村域の中間支援で受けるのが難しい

鳥取だと、とっとり県民活動活性化センターが広島岡山のように災害支援を行うのは難しい

地元の団体のいくつかと、東日本支援している協議会ある、そこが地域にケアもしていて、そこが資金無くなってきたので、そのあたりが可能性あるかなと思う

団体が県域になっているので、市町村域をどのように整理するか、私たちに代わる県域の団体が活用してもらうのもいいなと思っている

石原氏

ある程度市域の団体が専門団体として応募してもらう方が良いかと思う

県域活動の団体でも大丈夫だが、そうなる資金分配団体の役割が見えにくくなる

市町村域を厳密に捉える必要はなく、複数地域をまたいでいても良いと思う

その地域で詳しいことと、県域で詳しいことは違う

極端な話、社協が出してもいいと思う

小さな町の社協には財源がない、そういったところが使うのも良いと思う

伊藤氏

社協が受益者に入っていると思うが、プレイヤーとして社協が出てくることもあると思う

事業計画上整合性が悪ければ考える

石原氏

3つのコースについて

A：通常時中間支援向け 3年間 1,000万円×5団体

コンソ主催の各種会議（勉強会、意見交換会、ネットワーク会議）等への参加
自組織の組織基盤強化
災害時計画もしくはマニュアルの作成
地域のステークホルダーリストの作成
倉庫等の整備
災害対応備品等の整備

B：通常時支援団体向け 3年間 2,000万円×2団体

コンソ主催の各種会議（勉強会、意見交換会、ネットワーク会議）等への参加
自組織の組織基盤強化
災害時計画もしくはマニュアルの作成
地域のステークホルダーリストの作成
重機等の購入
倉庫等の整備
災害対応備品等の整備

C：発災時活動支援（期間3か月程度） 1,000万円

人件費：復旧復興に係る役職員の人件費
旅費交通費：復旧復興にかかる旅費交通費、重機等の燃料費も含む
消耗品費：復旧復興にかかる消耗品の購入
備品費：復旧復興にかかる備品の購入
賃借料：復旧復興にかかる会議室、被災地拠点確保等
業務委託費：復旧復興にかかる業務委託費、重機輸送、専門業者依頼 等
諸謝金：復旧復興にかかる専門家等への諸謝金
支払手数料：振込手数料、各種保険 等

松原氏

社協は両方の立場にいていい

県、市町社協によっても役割違う

アウトカムのロジックモデルに中国5県内の連携が拡がるとあるが、県内外と書いてもいいと思う

外からも入ってもらって、ネットワーク拡がったという見え方も大事

想定する予算、活動内容にもよるが、ノウハウ整理、人材育成、体制整備にお金を使えばいいと思う

防災力を高めるのは災害支援に係ることと整理できる

過去起きたところに学びに行く視察なども有効な使い方だと思う

広島の場合は市町中間支援、社協に声はかけられると思う

災害契機にできたNPOが休眠にどれだけ耐えられるかもあるが、そういったところにも声をかけていいかと思う

細田氏

前から聞いていた話なので、この事業計画でいいと思う

具体的に話があれば社協に声掛けしようと思う

Aのほう、小規模中間支援、出雲のボラセンなどが想定されるかと思っている

休眠申請に耐えられるか、伴走支援は必要かと思うが事業の立て付けとしては良いと思う

視察もよい取り組みになると思った

小林氏

想定する実行団体の活動に、重機購入とあるが、必要だと思うが、実際は利用制限がかかるのではないかと思うが

そのあたりお金をかけてよいか、維持費とかそれに対する団体を選ぶ必要があると思う

小笠原氏

細田が言ったが、小規模中間支援は今思いつくのは出雲ボラセンくらい。

島根は横に長いので、西部の方にそういった団体があるのかないのか、調べられていないところもあるこれを機会に聞いてみると何かあるのではと思っている

毛利氏

助成額について、数が増えるのは難しいので多くて2団体と思う

1,000万円×2団体くらいかなと思う

小林氏

重機の話も買おうと思うと1,000万円ではすくない

研修、内部調整だけでは、1,000万くらいでいいとおもう

細田氏

Aの場合は3年で1,000万円、一人人件費プラス α 、1,000万円は妥当かとおもう

備品の状況で足りないこともあるかもだが、そこについては、それに合わせた計画作れば良いと思う

小笠原氏

島根で2団体、3団体になると、理想は島根横に長いので東部、西部、2団体あったらいいな
そうなると500万円、3年間と考えると少ない気がする

理想は2団体

石原氏

小笠原氏が言った通り、1年人件費入れて300万、3年、中間支援は1,000万円だとう

重機も小型イメージで、200万とか、2,000万円でもいいかと思う

もっと必要なら加算していい

岡山は A、B 一団体ずつを想定している

松原氏

金額的には大中小の位置づけがあった時、大と小に分かれると思う

今日の話をつまえて、自分の県でどれくらい出そうか考える

難しければ今の話でいいと思う

A は最低 1 団体は出したい

支援団体は、ガバナンスどうかが引っ掛かるが、そこクリアできたら 1 団体

伊藤氏

ハード整備を言い出すと、上限なしになってしまうので、一定の助成額でやってもらうしかない

これまで、それぞれの県で案件の上下があるので県をまたいでの調整が出来れば、それが応用的に聞くのではないか。

事務局

資金計画について確認し、現状資金計画の金額について承認された。

事業名については石原さん案の中国 5 県における発災時の相互支援体制構築に向けた地域の支援団体育成・強化事業とする。

毛利氏

今回四国は入れていないが、四国への対応はあるのか

石原氏

災害分野では動きがあることは確認しているが、我々が四国内でコンセンサス取れるかというとなかなか難しい。


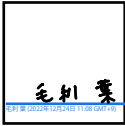
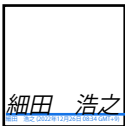

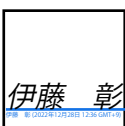
コミュ財の方が動いているので、コミュ財側と組めた方がいいなと思う

以上で議事のすべてを終了し、19:00 に閉会した。

以上の議決を明確にするために本議事録を作成し、運営委員がこれに押印する。

2022年11月13日

中国5県休眠預金等活用コンソーシアム

運営委員長	松原裕樹	
運営委員	毛利葉	
運営委員	細田浩之	
運営委員	石原達也	
運営委員	伊藤彰	

第27回運営委員会議事録


最終監査レポート

2022-12-28


作成日 :	2022-12-23
ユーザー名 :	Wataru Matsumura (matsumura3@npoc.or.jp)
ステータス :	署名済み
トランザクション ID :	CBJCHBCAABAQAqLa-hjCuAz611Svguac3HkzjzWClaST

履歴

-  Wataru Matsumura (matsumura3@npoc.or.jp) 様が文書を作成しました
2022-12-23 - 4:39:37 GMT- IP アドレス : 153.194.67.167
-  文書が署名のために matsubara@npoc.or.jp 様に電子メールで送信されました
2022-12-23 - 4:40:42 GMT
-  matsubara@npoc.or.jp 様が電子メールを閲覧しました
2022-12-23 - 5:46:51 GMT- IP アドレス : 49.97.103.161
-  署名者 matsubara@npoc.or.jp 様は 署名時に 松原裕樹 として名前を入力しました
2022-12-24 - 1:23:43 GMT- IP アドレス : 180.25.97.90
-  松原裕樹 (matsubara@npoc.or.jp) 様が文書に電子サインしました
署名日 : 2022-12-24 - 1:23:45 GMT - タイムソース : サーバー- IP アドレス : 180.25.97.90
-  文書が署名のために ymouri.tottori@gmail.com 様に電子メールで送信されました
2022-12-24 - 1:23:46 GMT
-  ymouri.tottori@gmail.com 様が電子メールを閲覧しました
2022-12-24 - 2:04:50 GMT- IP アドレス : 66.249.84.55
-  署名者 ymouri.tottori@gmail.com 様は 署名時に 毛利 葉 として名前を入力しました
2022-12-24 - 2:08:23 GMT- IP アドレス : 121.104.138.123
-  毛利 葉 (ymouri.tottori@gmail.com) 様が文書に電子サインしました
署名日 : 2022-12-24 - 2:08:25 GMT - タイムソース : サーバー- IP アドレス : 121.104.138.123
-  文書が署名のために hosodah@teiju.or.jp 様に電子メールで送信されました
2022-12-24 - 2:08:26 GMT
-  hosodah@teiju.or.jp 様が電子メールを閲覧しました
2022-12-25 - 23:33:07 GMT- IP アドレス : 220.110.212.169

 署名者 hosodah@teiju.or.jp 様は 署名時に 細田 浩之 として名前を入力しました

2022-12-25 - 23:34:29 GMT- IP アドレス : 220.110.212.169

 細田 浩之 (hosodah@teiju.or.jp) 様が文書に電子サインしました

署名日 : 2022-12-25 - 23:34:31 GMT - タイムソース : サーバー- IP アドレス : 220.110.212.169

 文書が署名のために 石原 達也 (npokayama.ishihara@gmail.com) 様に電子メールで送信されました

2022-12-25 - 23:34:33 GMT

 石原 達也 (npokayama.ishihara@gmail.com) 様が電子メールを閲覧しました

2022-12-25 - 23:41:44 GMT- IP アドレス : 66.249.84.57

 石原 達也 (npokayama.ishihara@gmail.com) 様が文書に電子サインしました


署名日 : 2022-12-25 - 23:41:56 GMT - タイムソース : サーバー- IP アドレス : 126.158.120.96

 文書が署名のために yamaguchiito@yahoo.co.jp 様に電子メールで送信されました

2022-12-25 - 23:41:57 GMT

 yamaguchiito@yahoo.co.jp 様が電子メールを閲覧しました


2022-12-28 - 3:36:20 GMT- IP アドレス : 124.146.233.111

 署名者 yamaguchiito@yahoo.co.jp 様は 署名時に 伊藤 彰 として名前を入力しました

2022-12-28 - 3:36:42 GMT- IP アドレス : 124.146.233.111

 伊藤 彰 (yamaguchiito@yahoo.co.jp) 様が文書に電子サインしました

署名日 : 2022-12-28 - 3:36:44 GMT - タイムソース : サーバー- IP アドレス : 124.146.233.111

 すべてのプロセスが完了しました

2022-12-28 - 3:36:44 GMT